【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第６部門第３区分
【発行日】平成24年4月19日(2012.4.19)

【公開番号】特開2010-211293(P2010-211293A)
【公開日】平成22年9月24日(2010.9.24)
【年通号数】公開・登録公報2010-038
【出願番号】特願2009-53765(P2009-53765)
【国際特許分類】
Ｇ０６Ｆ　1/16　(2006.01)
【ＦＩ】
Ｇ０６Ｆ　1/00　３１２Ｕ
Ｇ０６Ｆ　1/00　３１２Ｅ
Ｇ０６Ｆ　1/00　３１２Ｗ

【手続補正書】
【提出日】平成24年3月6日(2012.3.6)
【手続補正１】
【補正対象書類名】特許請求の範囲
【補正対象項目名】全文
【補正方法】変更
【補正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項１】
筐体と、
前記筐体の主面に配された蓋体と、
前記蓋体を軸支する支軸と、
前記筐体の主面および前記蓋体の表面に配され、複数の押下キーを備えた操作手段と、を有し、
前記蓋体は
一部が支軸によって前記筐体に位置規制され、
他の一部が前記筐体に係合して閉蓋状態となり、
前記係合が解除され、かつ、前記支軸を中心に変位して開蓋状態に変位可能である、情報処理装置。
【請求項２】
前記操作手段は、
押下キーの少なくとも一つである第一の押下キーの裏面が前記主面との間に距離を空けて配置され、
前記蓋体が開蓋状態のときに、
前記第一の押下キーに隣接する第二の押下キーの一部が、前記第一の押下キーの裏面と前記主面との間に位置する、
請求項１記載の情報処理装置。
【請求項３】
前記操作手段は、
押下キーの少なくとも一つである第三の押下キーのキートップの周囲の一部がキー周縁へ広がる斜面で形成されており、
前記蓋体が開蓋状態のときに、
前記第三のキーの斜面が前記第三のキーに隣接する第四のキーに近接する、
請求項１記載の情報処理装置。
【請求項４】

前記支軸は、前記押下キーの変位方向に変位可能とし、
前記蓋体は、
前記蓋体上に配された前記押下キーの操作面と、前記蓋体以外の部位に配された前記押下キーの操作面とがほぼ面一となる下降位置と、
前記蓋体上に配された前記押下キーの操作面が、前記蓋体以外の部位に配された前記押下キーの操作面に対して、前記押下キーの変位方向に高い位置となる上昇位置とに、変位可能である、
請求項１記載の情報処理装置。